

令和8年度 第2回河原地域振興未来会議議事概要

日 時 令和8年8月25日（火）13時30分～15時00分

場 所 河原町総合支所 2F中会議室

〔出席委員〕

林昭男、西谷美智子、前田伸一、渡邊幸勇、中村佳紀、田中ありさ、小坂美波、
田村 稔、北村幸広、山下教幸（順不同）

〔欠席委員〕

田村早百合、奥谷仁美

〔説明者〕

森田子ども家庭センター所長、濱田幼児保育課長

〔事務局〕

山根支所長、前田副支所長兼地域振興課長併教委分室長、岡本産業建設課長、浜部市民福祉課長、吉田地域振興課課長補佐

〔傍聴者〕

なし

会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - 1) 乳幼児健康診査の実施体制の見直しについて
 - 2) 休園中の散岐保育園の在り方について
 - 3) 河原地域未来プランの改訂について
- 4 報 告 事 項
- 5 そ の 他
- 6 事 務 連 絡
- 7 閉 会

議事概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 乳幼児健康診査の実施体制の見直しについて

説明者：森田子ども家庭センター所長

【委 員】 あゆっこ園の園児たちも駅南庁舎に行くことになるのですか。

【説明者】 健診には6ヶ月健診、1歳6ヶ月、3歳児健診があり、現在、河原地域の保育園に行っている園児は用瀬保健センターで健診を受けていただいておりますが、今後は駅南庁舎で受診していただくことになります。

【委 員】 集団健診とは違うのですか。

【説明者】 集団健診です。

- 【委員】 例えば、佐治から駅南庁舎に行くとなれば遠距離となり大変ではないでしょうか。また、車の運転ができない人や祖父母が面倒を見なければならないような実態は把握していますか。
- 【説明者】 本市は伴走支援を取り入れており、妊娠期から産後～乳幼児期にかけて各地区の担当保健師が対応しています。また、遠距離で交通面などに不安がありましたら、ご都合のつく日に医療機関にかかっていたくなど伴走支援の中でご家庭の状況をお聞きしながら対応していきたいと考えています。
- 【委員】 鳥取市の南地域で3人の保健師が居ることは良いことだと思いますが、3人の協働体制を検討していただきたいと思います。
- 【説明者】 保健師は母子保健を担当しているだけではなく、地域保健の中で高齢者や成人も含めて対応しています。乳幼児健診については、この担当者が主軸でやっていくとか、高齢者事業につきましては別の担当者が行っており、これらの連携や地域保健事業をどのように行っていくかということは今後も検討させていただきます。
- 【委員】 健診日はどういう決め方になりますか。
- 【説明者】 年度初めに健診の日程を決めており、6ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診とも各月に3日ずつ予定を入れています。大体1回の受診者数につきましては30人から35人ぐらいで、ここに西地域と南地域が入ってきても平均で7名程度が増える見込みであり、1回当たりの人数は大きく増えないと考えています。駅南庁舎の健診には2人の医師に来ていただいていますので、2ヶ所の診察場所があるという状態であり、1人の医師あたりの受け持ちが平均15～17人になります。現在、医師や関係スタッフの確保がなかなか難しくなっています。また、南部地域では受診者よりもスタッフの方が多いという現状もあり効率的ではないため、これからの持続可能性という点でも1ヶ所にまとめて行っていきたいと考えています。
- 【委員】 対象者もまとめるのですか。
- 【説明者】 同じ地域の方は同じ日程とさせていただきます。もし、ご都合が悪ければ3日間の内の別の日に変更していただけます。また、当該地域の保健師に来てもらうことも考えています。
- 【委員】 健診日程については柔軟に対応できるようにしてもらえたらありがたいと思います。
- 【委員】 健診の時間帯は午前中ですか。
- 【説明者】 午後からの健診となります。受付も時間をずらして分散しています。
- 【委員】 1回あたりの受診者は25人ぐらいですか。
- 【説明者】 25～30人程度で、多いときでも40人まではいかないです。

(2) 休園中の散岐保育園の在り方について

説明者：濱田幼児保育課長

- 【委員】 確認ですが、今は休園ということですね。
- 【説明者】 令和7年度から休園しており2年間が経過しましたが、なかなか散岐地区の人口が急激に増加することが見込みづらい中で、地元の方のご意見をふまえて、閉

園という形で次の利活用を考えていくという方針で進めていきたいと思っています。

【委員】 子どもがあゆっこ園に入ったら散岐保育園に帰るという選択肢はもうないと思います。そもそも1人2人では散岐保育園の運営は絶対無理な話です。このままの状況であれば施設が老朽化するだけなので何とかいい利活用を考えたいと思っていますところでは。

【委員】 昨年希望のあった4人の幼児はどこに通われていますか。

【説明者】 あゆっこ園など他の園に通っています。

【委員】 保護者が送迎しているのですか。

【説明者】 保護者の送迎です。休園して1年目は園バスを運行していましたが、西地域の一部の園も含め利用者が少ない状況であり、また保護者側からも送迎できるというようなお話を伺いましたので、令和7年度で全てのエリアでの園バスの運行を廃止しております。

【委員】 保育園の迎えは15時～16時頃ですか。

【説明者】 延長保育を利用されている人は18～19時の迎えもあります。

【委員】 町内には西郷保育園もありますが、どのような状況ですか。

【説明者】 入所児童数は令和8年8月1日現在で16人です。本市では公立保育施設の再配置計画を策定しており、一つの目安として、まず中学校校区に1園は必ず残すというような条件のもと、園全体で20人を下回った場合に統廃合の検討に入るということにはなっていますが20人を下回ったらすぐに検討に入っているわけではありません。今回、佐治と散岐では20人を大きく下回って4～5人というかなり少数な状況であったので休園といった措置にさせていただいたところでは。西郷は16人程度で推移しており、様子を見させていただいている状況です。今後、必要に応じて適宜、検討に入らせていただくこととなります。

【委員】 西郷の場合は、小学校もあり、小学校と保育園とでは基準が違い、同時に議論をすると大変なことになるので、分けて考えさせてもらえたらありがたいです。

【委員】 小学校についても今回の保育園のように、行政側からどのようにしたいという方針を出し、それに対して住民がどう考えるか、という形にしたほうが地元も意見が出しやすく良いと思います。

【事務局】 散岐保育園は地域から要望書を頂いた部分が大きな起点になったと思います。小学校も地域のご要望を頂きながら一緒に検討していきたいと思っています。

(3) 河原地域未来プランの改訂について

説明者：吉田地域振興課課長補佐

【委員】 中山間地域では高齢化が進み、子どもの数が減っています。イベントの開催はありますが、子どもが遊べる場所がありません。空き家対策を進めつつ子どもが自由に遊べる楽しい施設を整備する必要があると思います。

河原は鳥取道へのアクセスも良く、住みやすい場所です。子どもを大切にする視点はこれからますます重要だと思います。

【委員】 関係人口の創出は可能だと思いますが、これからの若い人が田舎での生活を望むかが課題です。農業だけで生計を立てることが困難な状況が深刻化しており、

国全体の課題であると認識しています。

【事務局】 来年度から「ふるさと住民登録制度」を導入し、関係人口増加に取り組む予定です。河原に訪れていただき、地域のお祭りへの参加や宿泊を促す取り組みを検討しているところです。

現在の地域未来プランは具体性が不足している点があり、修正が必要だと感じています。皆さんにアイデアをいただきながら、賑わいづくりに向けて出来ることを一緒に進めていきたいと考えています。その一つとして、道の駅かわはらには多くの来訪者がありますが、町内を周遊してもらう仕掛けが課題となっています。町内の自慢できる資源を PR し、活用を進めていきたいと考えています。

【委 員】 河原町にとって三滝は重要な資源です。地域の人が自ら行動を起こすための機運を醸成したいと思いますが、現在の状況はいかがでしょうか。

【事務局】 三滝へ行く道路は現在、通行止めになっています。

【委 員】 国英のカフェは賑わっています。同時に地域のカフェに足を運ぶなど地域住民自身が動くことが大切で、イベントへの参加意欲を高める機運の醸成も重要です。

【委 員】 上位計画ありきではなく、各地域のプランが積み上がって上位計画になるのではないのでしょうか。みんなで話し合い、個別の事業を盛り込んだ「とんがった」計画を作っても良いのではないのでしょうか。三滝の魅力や霊石山に関する源氏・平家の歴史なども積極的に PR すべきです。みんなでいろいろな案を出し合いながら話を進めていきたいと思っています。

【委 員】 売沼神社では三味線・花手水などのイベントを実施しています。

【委 員】 町内の歴史や物語を PR することも有効だと思います。

【委 員】 売沼神社には道の駅かわはらから多くの来訪者があるようです。

【委 員】 三滝が通行可能になったら若者向けのアウトドア施設・コテージとして活用してほしいと思います。

【委 員】 湯谷温泉付近でオートキャンプ場ができればという声を県外の方からよく聞きます。グラウンドゴルフ場上部の空きスペースをキャンプ場にしてはどうでしょうか。

【委 員】 温泉・清流・三滝など魅力的な素材がありながら、十分に活かしきれていないと感じています。

【委 員】 移住定住について、鮎ヶ丘団地は市内外及び県外から若い夫婦が集まった好事例です。新たな造成団地は効果的で需要もあります。

【委 員】 空き家対策は少数であっても移住者が増えることによる地域への効果は大きいです。

【委 員】 良い空き家物件がなかなか無く、リフォーム支援制度の充実があれば移住しやすくなります。

【委 員】 都会の子どもが土・田んぼに触れる農業体験を実施してはどうでしょうか。連携した「田舎体験」の仕組みが効果的だと思います。

【委 員】 西郷地区での修学旅行受け入れ（田植え・アスパラ収穫）は好評でした。先日の受け入れでも農業体験（アスパラ・ネギ・梨の収穫）が喜ばれました。観光農園として収益を得る仕組みが必要で、行政による後押しをお願いしたいです。

【委員】 河原の旧道の古い街並みや小川を生かした景観形成やまち歩きも観光資源になると思います。ゆったりとした雰囲気も面白いと思います。

【事務局】 皆さんからアイデアをいただきながら計画を進めていきたいと思いますので、追加のご意見があれば引き続きお寄せください。

4 報告事項

5 その他

6 事務連絡

7 閉 会